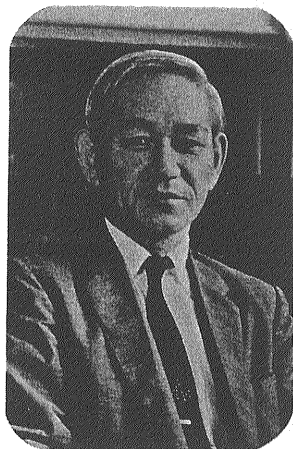


地質調査事業の展望

地質調査所長 齋藤正次



新春にあたり謹んで
お慶びを申し上げます。

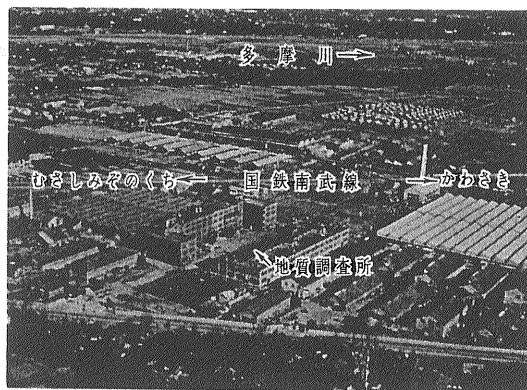
この地質ニュースも昭和27年発刊以来特別号を加えてほぼ120号に達しこの間数百の事がらを解説してまいりました。かように地質ニュースが充実してきましたのは広く国土の開発保全において 鉱物資源探査から建設事業 自然災害の予知・防止などあらゆる面に地質調査に対する要望が年とともに増大しまた海外における技術援助や資源探査とか地球に関する基礎研究とか地質調査事業の活躍面がますます多岐・多様となりまたこれらに依じて調査方法も次から次へと新しく考案・改善されてきたからであると思います。

地質調査に対する社会の期待が増加したことはいいかえますと調査対象が次第にむずかしいものになったことであります。鉱物資源におきましても地表の露頭を手がかりにして次第に下へ進んでいけば一応よかった時代を過ぎ 現今では石油や天然ガスはいうに及ばず銅鉛などの金属鉱物も実質的新鉱床は地下の非常に深いところとか平野や台地のように厚い被覆層のある下方とかあるいは海底下とか表面では直接の手がかりがないような場所で主として求めなければならないようになりました。また土木事業や自然災害におきましても建造物が重く大型になったり海を渡るトンネルや橋が計画されたり都市や工場地帯全般をまかなう水の処置とか広範囲の地盤沈下とか工事や構想が大がかりとなり問題が複雑になるにつれてそれらの基礎や基礎を正確に調査する重要さが一層認識されたわけでここにもこれまでの地質調査の経験では未知のことがまだ多い事がらを取り扱わねばならなくなりました。

とくに応用面における地質調査では地下の物体の性質や空間的の広がりについての計数的な答えを要求され

ることが多いのですが近年の技術革新によって地質調査においてもいろいろ計測法が発達いたしました。たとえば各種の物理探査法とかボーリング技術とこれに伴う地下探索法の開発・改良やX線・機器分析の器具の進歩などがこれです。狭義の地質学におきましても力学的意味の構造地質学とか岩石物理学(Petrophysics)などの分野が日本でも台頭しつつあるのもこの現われと思います。写真地質学も地質踏査の大幅な節約だけでなく調査結果の精度の向上に益する計測法として等閑視できなくなりました。従来から重視されてきた化学的および古生物学的の考察にかえて上述のようないわば物理的方法との3者に立脚しつつ地質調査法はますます機械化・近代化していくでしょう。機械化によっていままでより以上の多くの情報が得られましようがしかしながら情報を器械的にうのみにするのはしばしば危険であり地質学を基礎としてこれを正しく判断することが大切であります。

近代化の必然の結果として研究は分業化に進みますが現代の地質調査の対象には多くの分野を総合することによって初めて解明されるものが増えております。もちろん良い総合にはそれぞれの分野が深い基礎に立脚した充実したものであることが先決であります。しかし隣の方野に何があるかに対しお互いの理解も必要であります。この地質ニュースは地質調査事業の様子を広く社会に普及するとともに専門家に対し領域外のことを理解していただくことも目標としております。この地質ニュースが皆様にますます親しみのあるものになることを願っております。



空からみた地質調査所(溝ノ口本所)